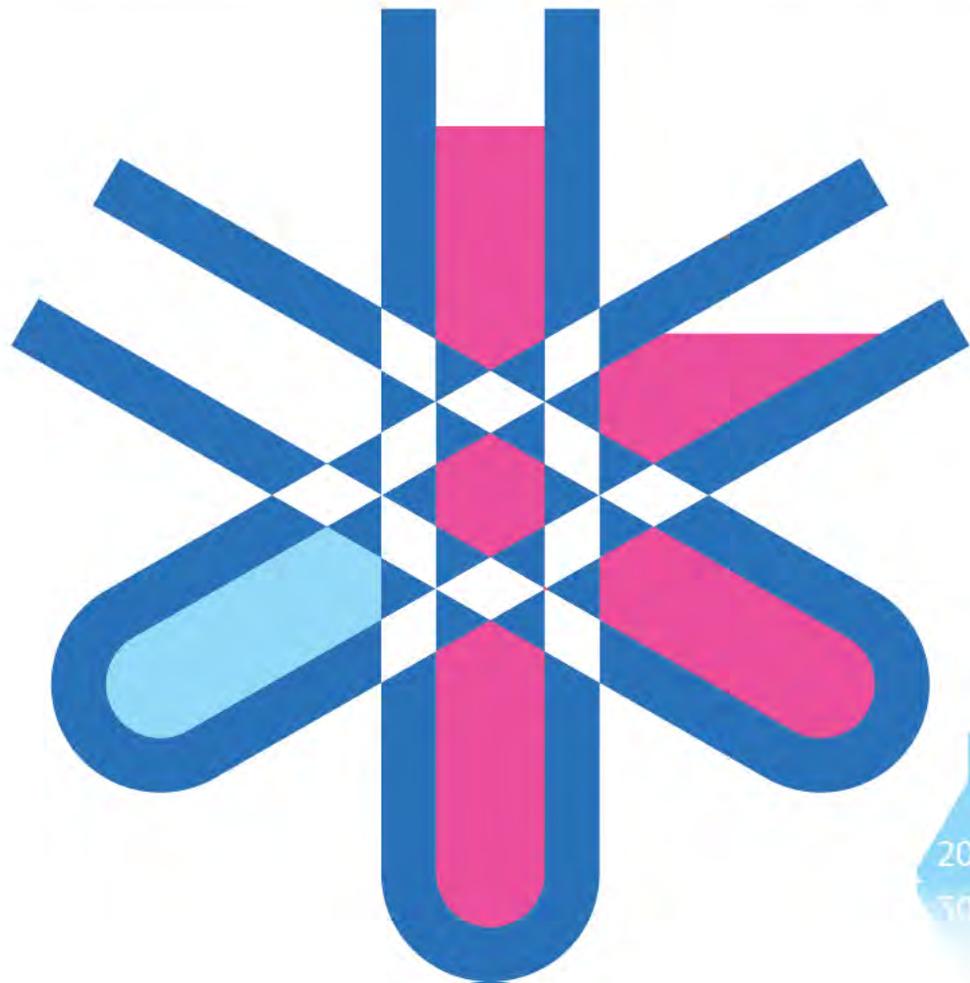


検査情報月報



2017
5月

横浜市衛生研究所

平成29年5月号 目次

【トピックス】

平成28年度 医動物・食品中異物検査のまとめ	1
小児科定点医療機関における病原体サーベイランスのまとめ	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症のまとめ	3
平成28年度 食品等の苦情品検査	6
食品中の放射性物質検査結果	11

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 4月	12
-------------------------	----

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	16
---------------------	----

平成28年度 医動物・食品中異物検査のまとめ

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。平成28年度の食品中異物検査実績は2件で、ともにコウチュウ目でした。

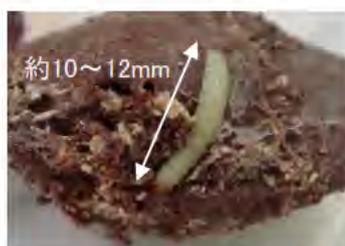
今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
粉末食品に虫が混入していた。		ヒメマルカツオブシムシの幼虫 (コウチュウ目)	ヒメマルカツオブシムシの幼虫は広食性で、毛織物やかつおぶし、煮干など、動物質の乾燥食品を好むが、玄米や小麦など植物質の食品も加害する。 成虫は年1回、5、6月頃に発生する。
ラスクに虫が混入していた。		マダラカツオブシムシ属の幼虫 (コウチュウ目)	マダラカツオブシムシ属のうち、いくつかの種は植物性食品を好み、貯穀や乾燥食品を食害する。 成虫は餌をとらずに交尾、産卵できる。

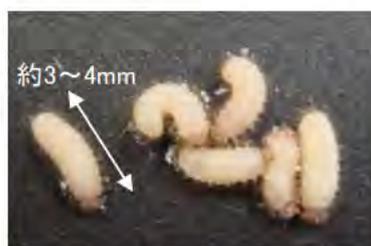
ノシメマダラメイガとタバコシバンムシ

虫たちが元気(?)に動き回る季節がやってきました。今回は、食品害虫として報告が多い2種類の虫を紹介します。ノシメマダラメイガの幼虫は、お米などの穀類や豆類、チョコレートなどを食害し、成虫は4月頃から現れます。タバコシバンムシの幼虫は、穀類の粉、香辛料など乾燥食品類を食害し、成虫は5月頃から現れます。

お家の中で長期保管している食品が、虫たちに食害されているかもしれません。食べる前によく確認して、開封後は早めに食べましょう。



ノシメマダラメイガ



タバコシバンムシ



小児科定点医療機関における病原体サーベイランスのまとめ (2016年細菌検査について)

当所では、感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の一環として病原体の検索をおこなっています。細菌担当では、市内8か所の小児科定点医療機関から送付された細菌検査検体について、主にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎および感染性胃腸炎の検査をおこなっています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、ランスフィールドの分類でA群に分類されるレンサ球菌による咽頭炎であり、小児では発赤、高熱、発疹を伴う咽頭炎を呈し、重症化すると猩紅熱、続発症として急性糸球体腎炎、リウマチ熱等を発症することがあります。感染性胃腸炎は、細菌またはウイルスなどによる嘔吐、下痢などを主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルスが主ですが、細菌性のものも含まれます。

今回は2016年1月から12月までの1年間に小児科定点医療機関から受け入れた検体についてその検査結果を報告いたします。

最初にA群溶血性レンサ球菌咽頭炎ですが、患者の咽頭拭い液36検体から分離されたA群溶血性レンサ球菌30株のT型別¹⁾結果を表に示しました。市内では、T型別不能株が16株(44%)であり、昨年度と同じ傾向でした。これらの結果は、衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンターに報告しており、全国のデータがまとめられて国立感染症研究所のホームページで報告²⁾されます。

次に感染性胃腸炎ですが、下痢、発熱、腹痛などを呈している患者の直腸ぬぐい液5検体について起因菌の検索を行ったところ、*Salmonella* Typhimuriumが同じ患者の3検体より分離されました。

表 病原体サーベイランス検体から分離されたA群溶血性レンサ球菌のT型別結果

菌型	T1	T3	T4	T6	T12	TB3264	型別不能	計
2016年1～12月	6	1	2	1	3	1	16	30

¹⁾ T型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在するT蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。

²⁾ 国立感染症研究所 第37回衛生微生物技術協議会溶血レンサ球菌レファレンスセンター等報告

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/manual/297-labo-manual/6629-reference-report37.html>

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

劇症型溶血性レンサ球菌感染症のまとめ (病原体の検査結果について)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、溶血性を示すA群やG群のレンサ球菌によって引き起こされる感染症です。基礎疾患の有無に関わらず、突然の四肢の疼痛、腫脹、発熱などで発症し、その後急激に軟部組織壊死、急性腎不全、播種性血管内凝固症候群(DIC)、多臓器不全(MOF)を引き起こしショック状態から死亡することも多い感染症です。1999年の調査開始から患者数は年々増えており、2016年第52週の感染者報告数は、全国で492例、神奈川県で53例となっています。

当所では、感染症法に基づく感染症発生動向調査事業の一環として市内の医療機関から送付された劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から分離された菌株についてT型別¹⁾、*emm*遺伝子¹⁾、発赤毒素(*spe*)遺伝子の検査をおこなっています。さらに菌株を国立感染症研究所に送付し、そこでM型別¹⁾、薬剤感受性試験などをおこなっています。²⁾

今回は2016年1月から12月までの1年間に市内の医療機関から受け入れた菌株についてその検査結果を報告いたします。

全国的に、2014年から発生件数が急激に増加し2016年は、発生届22事例から分離された31株の菌株が搬入されました。その起因菌はA群、B群およびG群溶血性レンサ球菌でした。そのうち事例数が多い株として、A群では「TB3264型 M型別不能 *emm* 89.0」の株が5事例から分離されました。また、G群では「*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis emm* stG6792.3」の株が4事例から分離されました。また、今年もB群溶血性レンサ球菌による事例が3事例でしたが、血清型はそれぞれ異なっていました。

患者の内訳は22事例のうち、男性が12事例(A群4事例、B群2事例、G群6事例)、女性が10事例(A群6事例、B群1事例、G群3事例)となっており、A群は女性、G群は男性にやや多く見られました。また、年齢別に分類すると22事例のうち40代～50代が6事例、60代～70代が7事例、80代～90代が9事例と、高齢者に多く発症する傾向がみられました。

¹⁾ T型別、M型別とは、A群溶血性レンサ球菌の菌体表層に存在する蛋白の血清型別のことで、疫学調査の手段として広く用いられています。また、M蛋白は抗オプソニン作用を示し、病原因子として知られています。*emm*遺伝子による型別はそのM蛋白遺伝子で型別する方法です。

²⁾ 国立感染症研究所 衛生微生物技術協議会第37回研究会(広島) レファレンスセンター等報告
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/allarticles/manual/297-labo-manual/6629-reference-report37.html>

表 2016年に搬入された劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来菌株の検査結果

採取日	年齢	性別	材料	菌名	T型	M型	emm	発赤毒素遺伝子 (spe)
				G群				
12/24	83	女	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG10.0	
				B群 V型				
				G群				
3/15	84	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			型別不能	
4/16	53	女	胸水	A群	UT	UT	112.0	speB、speC、speF
4/27	74	男	血液	A群	UT	3	3.93	speA、speB、speF
5/8	80	男	壊死軟部 組織	A群	12	UT	89.0	speB、speC、speF
				G群				
5/24	73	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG6792.3	
6/16	48	女	皮膚病巣	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
6/23	42	女	血液	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
				G群				
7/16	65	男	膿	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG6792.3	
				G群				
7/16			膿	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG6792.3	
				G群				
7/19			皮下組織	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG6792.3	
				G群				
8/31	71	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG11.0	
				B群 I b型				
				G群				
10/7	46	男	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG245.0	
				G群				
10/11	65	女	血液	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG6792.3	
10/14	74	男	血液	A群	1	1	1.0	speA、speB、speF
10/19	52	女	動脈血	A群	B3264	UT	89.0	speB、speC、speF
10/19			動脈血	A群	B3264	UT	89.0	speB、speC、speF
10/20			皮膚病巣	A群	B3264	UT	89.0	speB、speC、speF
10/21			皮膚病巣	A群	B3264	UT	89.0	speB、speC、speF

表 2016年に搬入された劇症型溶血性レンサ球菌感染症由来菌株の検査結果(続き)

採取日	年齢	性別	材料	菌名	T型	M型	<i>emm</i>	発赤毒素遺伝子 (<i>spe</i>)
11/4	85	男	創部	A群	B3264	UT	89.0	<i>speB</i> 、 <i>speC</i> 、 <i>speF</i>
11/11	43	女	血液	A群	B3264	UT	89.0	<i>speB</i> 、 <i>speC</i> 、 <i>speF</i>
11/11			血液	A群	B3264	UT	89.0	<i>speB</i> 、 <i>speC</i> 、 <i>speF</i>
11/4	85	女	血液	A群	B3264	UT	89.0	<i>speB</i> 、 <i>speC</i> 、 <i>speF</i>
11/4			血液	A群	B3264	UT	89.0	<i>speB</i> 、 <i>speC</i> 、 <i>speF</i>
11/4			皮膚	A群	B3264	UT	89.0	<i>speB</i> 、 <i>speC</i> 、 <i>speF</i>
11/6	86	男	血液	B群 II型				
12/2	86	女	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG485.0	
12/2			血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG485.0	
12/19	75	男	血液	G群 <i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>			stG6792.3	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

平成28年度 食品等の苦情品検査

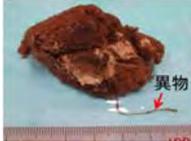
-食品添加物担当で行った理化学検査-

平成28年度に、福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品の中で、原因究明のために食品添加物担当へ搬入された検体は33件70検体でした。苦情の内容は様々ですが、異物混入が多く見られました。主な検体の検査結果は次のとおりです。

検体名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
じゃがいも	じゃがいもの蒸し焼きを食べたところめまい、吐き気等の症状を呈し、医療機関でソラニン食中毒と診断された。ソラニン類の検査が依頼された。	HPLC分析 備考	残品がないため店舗に保管されていた調理前のじゃがいも5個について検査を行った。 α-ソラニン:29~63 μg/g α-チャコニン:41~86 μg/g 衛生試験法・注解2015によると、通常のじゃがいもには100g中数mg~数10mgのソラニン類が含まれているといわれており、今回の検出値は通常範囲の濃度であった。
米中の異物 	米を研いでいたところ、2~3cmぐらいのガムのような異物が出てきた。	外観 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 ヨウ素デンプン反応 結果	大きさ20×18×9mm、重さ1.6g、薄茶色の不定形異物。一部白色の箇所も見られた。異物は比較的もろく、容易に砕くことができた。 デンプン粒など大きさの異なる粒子を多数認めた。 対照品(米ぬか)と表面の構造が似ていた。 炭素、酸素、窒素、リン、カリウム、マグネシウム等の元素を認めた。 対照品と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性 米ぬかの固まりと推定された。
イヌサフラン 	庭に植えていたイヌサフランをギョウジャニンニクと間違えて、油で炒めた球根部分を食べ、嘔気の症状を呈し、2名が病院を受診した。残品中の有毒成分検査が依頼された。	外観 HPLC分析 備考	半分に切断された、球根様の固まり2個。大きさは①約3.5×3.5×1.5cmと②約3×2.5×1.5cm、重さは①8gと②6g。 イヌサフランに含まれているコルヒチンとデメコルシンについて検査を行った。 コルヒチン:①270 μg/g、②300 μg/g デメコルシン:①340 μg/g、②320 μg/g 厚生労働省の自然毒のリスクプロファイルによると、コルヒチンのヒト最小致死量は体重50kgの場合4.3mg程度とされている。デメコルシンもコルヒチンより弱い毒性があり、今回の検出濃度は球根1個で最小致死量に達する可能性があった。

検体名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
合成樹脂様透明異物 	給食のご飯から異物が出てきた。給食施設内で使用しているホウキとの同一性の確認を依頼された。	外観 赤外分光分析結果	長さ45mm、太さ0.50mm、重さ9mgの棒状異物、中央部分がくの字に折れ曲がっており、茶色く変色していた。中央部分近くに変形した箇所を認めた。異物は硬く、変形しにくかった。 ポリアミドと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。ポリアミドを主成分とする合成樹脂と推定された。対照品(ホウキ)はポリアミド製だが、太さ、色、硬さが異なっていた。
金属様異物 	給食を喫食中に異物が出てきた。	外観 マイクロスコープ マイクロアナライザー 磁性結果	長さ10.5mm、幅約1mm、厚さ約0.5mm、重さ11mg、銀色の硬い半円状の金属様異物。水に入れると沈んだ。 水で洗浄後、拡大して観察すると、所々黒ずんでいるが比較的滑らかな面と、全体的に銀色で凹凸のある面を認めた。 アルミニウムおよび酸素の元素を認めた。 磁性は認められなかった。 アルミニウムの破片と推定された。
コロッケ	市内の複数小学校から給食喫食後、アレルギー症状の児童が出ていたとの連絡を受けた。共通食品のコロッケについてアレルギー物質(乳)の検査が依頼された。	乳(スクリーニング検査) 備考	検食および調理前のコロッケ17検体について、検査した結果はすべて陽性(10ppm以上)であった。その後の調査で、乳アレルギーを避けるために材料に含めないように指示していた脱脂粉乳を混ぜて製造していたことが、製造記録から判明した。
井ぶり中の異物 	レストランで喫食中に、異臭のする異物が出てきた。	外観 官能検査 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 リグニン反応結果	大きさ16×13mm、重さ83mgの茶色の異物。 4名で行い、全員が油の劣化した臭いを認めた。繊維状のものが乱雑に交差している様子が観察された。また、これらの形状は対照品(手拭紙)と類似していた。 酸素、炭素の元素を認めた。 対照品(手拭紙)およびセルロースと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 異物:陰性、対照品:陰性 紙と推定された。

検体名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
キャベツの和え物中の異物 	給食を喫食中に口腔内から発見。調理室内のビニール片(料理酒外装ラップ)と共通点の有無について検査依頼された。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果 備考	2つの三角形の形状物(各辺の長さ①24.5、20.0、19.5mm、②21.0、20.0、19.5mm、各厚さ約0.04mm)が一辺を介して繋がった重さ11.1mgの透明の異物。 端の一辺(接合部)は、料理酒外装ラップ(参考品)と比べて直線的で滑らかであった。 ポリプロピレンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレンを主成分とする合成樹脂と推定された。 異物と参考品は接合部の形状が異なっていた。
ひじきサラダ中の異物 	給食のひじきサラダを喫食中に短い縄のようなものを発見した。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	長さ12mm、太さ1mm、重さ20mgの黒くて硬い縄状の物体。 細い繊維状のものが、からみあった状態で溶け固まったような形状をしており、表面は全体的にツヤがあった。 ポリエチレンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレンを主成分とする繊維の欠片と推定された。
サンドイッチ中の異物 	喫食中に違和感があり、口の中から取り出したところ、異物を発見した。	外観 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 結果	大きさ21×10mm、重さ35mg、薄い白色半透明のプラスチック様異物。折り重なった状態であり、広げると大きさ26×10mmであった。付着物を除くため、水およびエタノールで洗浄すると、片面は比較的滑らかな手触りであったが、反対面は粘着性を有していた。 片面は比較的滑らかな構造をしていた。一方、反対面は微細な窪みのある構造であった。 片面は炭素を認めた。一方、反対面は炭素、酸素、窒素の元素を認めた。 片面はポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。一方、反対面はポリウレタンに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレンおよびポリウレタンを含む樹脂の破片と推定された。
みかん缶詰の異味異臭	ビールやしょうゆのような発酵臭、異味がする。	官能検査 GC/MS分析 結果	5名で行い、全員がわずかに発酵臭を認めた。 ジエチルエーテル抽出液のGC/MS分析で、参考品(未開封、別ロット品)にはない物質(イソブタノール、イソアミルアルコール、アセトイン、アセトール)を検出した。 発酵により臭気成分(イソブタノール、イソアミルアルコール、アセトイン、アセトール)が生成したと推定された。

検体名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
食パン中の異物 	ホール食パンを切って食べたところ、金属のような異物が出てきた。	外観 マイクロアナライザー 磁性結果 備考	長さ15mm、幅最大1mm、重さ6mgの細長く湾曲した銀色光沢のある軟らかい金属片。 アルミニウムと微量のマグネシウム、マンガンの元素を認めた。 磁性は認めなかった。 アルミニウムの金属片と推定された。 対照品(食パンが入っていた容器)も同様の材質であることから、容器の一部が混入した可能性が考えられる。
白飯中の異物 	給食の白飯喫食中に、口の中から白色の硬質異物を発見した。	外観 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 燃焼性 ニンヒドリン反応結果 備考	大きさ7×5mm、厚さ4mm、重さ91mg、黄色がかった灰白色(一部茶褐色)の硬い異物。 異物表面は観測部位により形態的特徴が大きく異なり、空隙の少ない部位、凹凸や丸い空隙の多い部位などが観察された。 全体的に炭素、酸素、ケイ素、窒素等の元素を認めた。空隙の少ない部位(異物の大部分)ではカルシウムの元素をほとんど認めなかったが、異物上部(凹凸や丸い空隙の多い部位)ではカルシウムの元素を認めた。 加熱するとタンパク質を燃やしたような臭いを発し、黒色に変化した。さらに加熱を続けると白色に変化した。 陽性 カルシウムやタンパク質を含有する物質と推定された。 形態的特徴や元素分析(マイクロアナライザー)の結果などから軟骨の可能性が考えられる。 なお、この日の献立は、白飯、たらちり、かぼちゃのそぼろあんかけであった。
バナナ入り洋生菓子中の異物 	喫食中に口の中に違和感を感じ、商品を見ると糸状のものを発見した。	外観 マイクロスコープ マイクロアナライザー 赤外分光分析 リグニン反応結果	バナナとスポンジ生地の中に、長さ約6cm、幅約0.4mmの茶色い糸状のものが挟まっていた。異物は数本の糸状のものがより合わさった状態だったが、異物を水で洗浄すると、半透明で所々が茶色い長さ約16cm、幅約0.1mmの細い1本の糸状となった。 洗浄した異物は、当所で対照品として用意したバナナの皮の繊維と形状が類似していた。 炭素、酸素等の元素を認めた。 対照品のバナナの皮の繊維と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 異物:陰性、対照品:陰性 バナナの繊維と推定された。

検体名	事故・苦情理由	試験項目	試験結果
いか燻製中の異物 	いか燻製を食べていたところ、噛みきれないものがあった。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 燃焼性 ニンヒドリン反応 結果 備考	①大きさ35×2～10mm、重さ180mg、②大きさ100×10～17mm、重さ850mg、2個の薄い淡黄色の固まり。乾燥した状態であり、力を加えると容易に砕けた。水に入れると柔らかくなり、弾力性を認めた。細かいスジを多数認めた。なお、当所で用意したいか(ヒレ部分)をメチレンブルーで染色して観察すると、異物と同様に細かいスジを多数認めた。タンパク質と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。加熱するといかの焼いたような臭いを発し、炭化した。 陽性 タンパク質の固まりと推定された。 原材料のいかの一部の可能性が高いと考えられる。
マカロニのクリーム煮中の異物 	給食のマカロニクリーム煮の中から異物が出てきた。	外観 電子顕微鏡 マイクロアナライザー 赤外分光分析 燃焼性 ニンヒドリン反応 結果 備考	大きさ10×5mm、重さ43mgの黄褐色(半透明)で少し湾曲した硬い異物。水に浸すと柔らかくなり、弾力性を有した。 軟骨小腔と思われる微細な穴を認めた。 炭素、酸素、窒素、硫黄等の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。加熱するとタンパク質を燃やしたような臭いを発し、黒色に変化した。 陽性 タンパク質を主成分とする物質と推定された。 形態的に軟骨の可能性が考えられる。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

食品中の放射性物質検査結果

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月から検査を行っています。

平成28年度に当所で行った食品の検査結果は表1、表2のとおりで、基準値*を超えた検体はありませんでした。

※ 放射性セシウム(Cs)の基準値(Cs-134とCs-137の合計)

乳児用食品:50Bq/kg、飲料水:10Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

表1 検体の種類

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	28	3
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	50	1
小学校給食	米類及び牛乳など	338	1
合計		480	5

表2 検査結果

検体の種類	検査検体名 []内は検体数	放射性Cs検出検体 []内はCs検出検体数	結果(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	Cs合計
市内産農産物	うめ[1]、かき[1]、かぶ[1]、かぼちや[1]、キャベツ[1]、きゅうり[1]、玄米[1]、こまつな[2]、さつまいも[1]、しいたけ(生)[2]、だいこん[2]、たけのこ[1]、たまねぎ[1]、トマト[1]、なす[1]、日本なし[1]、にんじん[2]、ねぎ[1]、はくさい[1]、ばれいしょ[1]、ぶどう[1]、べかな[1]、みかん[1]、レタス[1]	しいたけ(生)[2]	—	5.20	5.2
			—	2.19	2.2
		たけのこ[1]	1.08	6.10	7.2
市内産水産物	アカカマス[2]、イボダイ[5]、ウミタナゴ[1]、カナガシラ[4]、キチヌ[2]、コショウダイ[4]、シリヤケイカ[4]、シログチ[11]、スズキ[2]、タチウオ[9]、ヒラメ[3]、ヘダイ[1]、ホウボウ[2]、マアジ[1]、マサバ[1]、マダイ[2]、マルアジ[6]	—	—	—	—
市内産畜産物	原乳[4]	—	—	—	—
市内量販店流通食品	果汁入り飲料(乳児用食品)[2]、牛乳[15]、粉ミルク[7]、米(精米)[4]、清酒[3]、清涼飲料水(乳児用食品)[4]、鱈[1]低脂肪牛乳[2]、トマトジュース[1]、ベビーフード[7]、無脂肪牛乳[3]、レトルトご飯[1]	牛乳[1]	—	1.27	1.3
小学校給食	あずき水煮[1]、牛乳[178]、米[85]、胚芽米[27]、発酵乳[3]、麦[43]、もち米[1]	米[1]	—	0.635	0.64

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 4月

《今月のトピックス》

- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。
- インフルエンザの定点あたり報告数は、警報解除基準値を下回りましたが、横ばいです。

◇ 全数把握の対象

〈4月期に報告された全数把握疾患〉

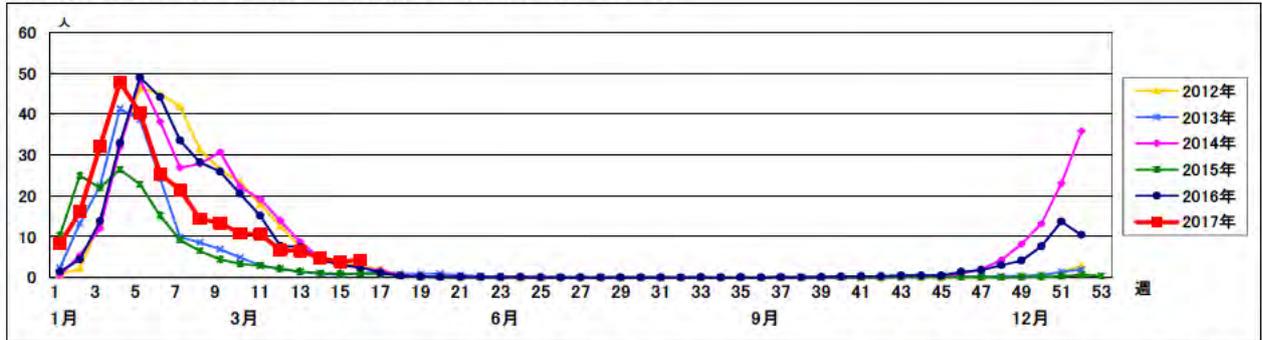
腸チフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	3件
デング熱	1件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	1件	梅毒	16件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	風しん	1件

- 腸チフス:1件の報告があり、バングラデシュでの感染と推定されています。
- E型肝炎:1件の報告があり、国内での経口感染と推定されています。
- デング熱:スリランカでの蚊による感染と推定される報告が1件ありました。血清型は2型でした。
- レジオネラ症:肺炎型の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢:4件の腸管アメーバ症、1件の腸管外アメーバ症の報告がありました。感染経路はいずれも国内で、異性間性的接触が1件、経口感染が1件、感染経路等不明が3件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎:水痘帯状疱疹ウイルスによる報告が1件ありました。
- クロイツフェルト・ヤコブ病:古典型CJDが1件報告されました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:G群が1件報告され、感染経路等不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が1件(同性間性的接触)、無症状病原体保有者の報告が2件(同性間性的接触が1件、異性間性的接触が1件)ありました。3件とも男性でした。
- ジアルジア症:1件の報告があり、インドでの水系感染と推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:b型の小児の報告が1件あり、ワクチン接種歴が確認されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:14件の報告があり、うち4件の小児についてはワクチン接種歴が確認されました。10件(50~90歳代)については2件のみワクチン接種歴が確認されましたが、8件はワクチン接種歴を確認できませんでした。
- 水痘(入院例に限る):小児の臨床診断例の報告が1件あり、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 梅毒:16件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。国内での感染が15件、感染地域不明が1件でした。感染経路は、異性間性的接触が8件、異性間および同性間性的接触が1件、詳細不明の性的接触が4件、感染経路不明が3件でした。男性10件、女性6件でした。
- 風しん:臨床診断例の報告が1件あり、詳細は調査中です。ワクチン接種歴は確認できていません。

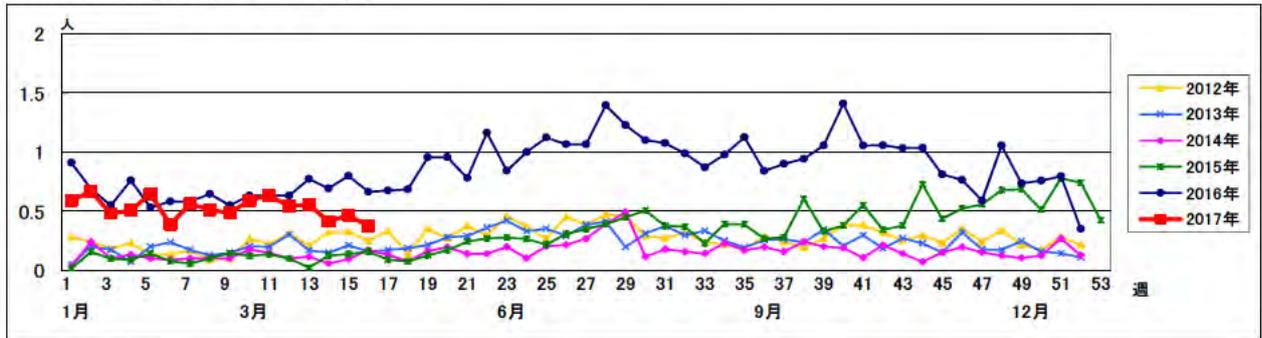
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第13週	3月27日～4月 2日
第14週	4月 3日～4月 9日
第15週	4月10日～4月16日
第16週	4月17日～4月23日

1 インフルエンザ: 第46週で定点あたり1.38にて流行入り(目安:1.00)、第51週で13.67にて注意報発令(基準値:10.00)、第3週で32.07にて警報発令(基準値:30.00)となりました。第4週の47.83をピークとして漸減し、第12週で6.72にて警報解除基準値(10.00)を下回りました。第14週で4.71、第15週で3.88と漸減傾向でしたが、第16週は4.32となっています。今シーズンの流行はAH3でしたが、第16週では迅速検査にて81.2%がB型となっています。学級閉鎖の報告は、第15週で2件(小学校)、第16週で9件(うち小学校8件)の報告がありました。



2 流行性耳下腺炎: 2015年後半から漸増し、現在まで報告数が多い水準にて推移しています。第16週で定点あたり0.37となっています。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:18件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 4件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性: 2件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:12件	女性: 0件

4 基幹定点週報

	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.25	0.67
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	2.25	2.75	0.75	0.67

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点46件、内科定点14件、眼科定点2件、基幹定点7件で、定点外医療機関からは2件でした。

5月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株31例と遺伝子18例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(4月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎
アデノ 2型					1	
アデノ 型未同定	1	1				
インフルエンザ AH1pdm09型			1			
インフルエンザ AH3型N2			8			
インフルエンザ B型ビクトリア系統	1		11			
インフルエンザ B型山形系統			8			
パラインフルエンザ 3型	1					
RS		1		2		
ボガ	1					
ヒトメタニューモ	2	2	1			
ライノ	1	3	1			
ノロ						2
合計	1 6	1 6	28 2	0 2	1 0	0 2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月の「感染性胃腸炎」は小児科定点から1件、基幹定点から *Salmonella* Typhiと *Salmonella* Enteritidis の2件でした。

「その他の感染症」は小児科定点から4件、基幹定点から7件、定点以外の医療機関から9件でした。定点以外の医療機関のバンコマイシン耐性腸球菌の3件は *Enterococcus faecium vanA* でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(4月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	4月			2017年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌					2	4
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌		1			1	
サルモネラ属菌		1			4	2
不検出	1	0	0	1	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	4月			2017年1月～4月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	3		5		
	T4			3		
	T6			1		
	T B3264			1		
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌						3
G群溶血性レンサ球菌		1			1	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						2
バンコマイシン耐性腸球菌			3			4
レジオネラ属菌						3
インフルエンザ菌			1	1		1
肺炎球菌		3	3		3	6
結核菌					20	44
百日咳菌					2	
その他		3			42	15
不検出	1	0	2	1	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年4月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年4月の総アクセス数は、101,232件でした。前月に比べ約4%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*162.1%、保健情報12.3%、生活環境衛生12.0%、検査情報月報3.0%、食品衛生2.8%、薬事0.6%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

4月のアクセス順位(表1)を見ると、「24時間風呂」や「粉ミルク」に関する項目が新たに入っています。

1位は「24時間風呂を使っているのですが…」、2位は「大麻(マリファナ)について」、3位は「横浜市インフルエンザ流行情報18号」でした。感染症以外の項目では、「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数が、継続的に上位を占めています。

表1 平成29年4月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	24時間風呂を使っているのですが…	10,973
2	大麻(マリファナ)について	6,405
3	横浜市インフルエンザ流行情報18号	5,806
4	横浜市感染症情報センタートップページ	3,979
5	ボツリヌス症について	3,120
6	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	2,879
7	衛生研究所トップページ	2,826
8	粉ミルク(乳児用調整粉乳)を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか?	2,427
9	インフルエンザ流行情報(2016/2017)	2,207
10	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,175

データ提供: 市民局広報課

「24時間風呂を使っているのですが…」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/life-inf/mizu/24bath.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市インフルエンザ流行情報18号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2016/rinji18.pdf>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年4月の問い合わせは、3件でした(表2)。

表2 平成29年4月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
飲食店への苦情について	1	中区生活衛生課食品衛生係
2-エトキシフェノールを摂取した場合のリスクについて	1	理化学検査研究課食品添加物担当
英国の予防接種について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成29年4月に追加・更新した主な記事は、14件でした(表3)。

表3 平成29年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月 5日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
4月 5日	アメリカ合衆国のこどもの定期予防接種について	更新
4月 5日	アメリカ合衆国の大人の定期予防接種について	更新
4月 7日	感染症に気をつけよう(4月号)	掲載
4月 7日	オーストリアのこどもの定期予防接種について	更新
4月11日	ポルトガルのこどもの定期予防接種について	更新
4月12日	イタリアのこどもの定期予防接種について	更新
4月13日	ルクセンブルクのこどもの定期予防接種について	更新
4月13日	マルタ共和国のこどもの定期予防接種について	更新
4月14日	カナダのこどもの定期予防接種について	更新
4月21日	デング熱・デング出血熱について	更新
4月21日	フィリピンのこどもの定期予防接種について	更新
4月26日	ボツリヌス症について	更新
4月27日	ニカラグア共和国の定期予防接種について	掲載

【 感染症・疫学情報課 】